

「新しい東北」官民連携推進協議会

**令和4年度
意見交換会(第2回)**

福島県

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

2022年10月20日

1. 本日の論点
2. 第1回意見交換会の振り返り
3. 令和4年度実践の場の具体案について
 - ① 今年度の取組の狙い・全体像
 - ② 実践の場の具体案
 - ③ 本年度の数値目標案
4. 意見交換
5. 今後のスケジュール

● 1. 本日の論点

実践の場実施に向けて、実践の場の内容案に関する議論をさせていただきます。

論点1	実践の場（0回目サミット）実施にあたり、目的の再確認
論点2	実践の場の内容案（テーマ案・プログラム内容・記者発表内容）に関する検討
論点3	実践の場の内容案（招待する参加者及び募集方法）に関する検討
論点4	目標達成に向けて副代表団体として支援・関与できること

● 2. 第1回意見交換会の振り返り

第1回意見交換会にて皆様よりいただいたご意見に対する回答及び反映状況を下記の通り整理。

No,	主な意見	回答・反映
1	<p>●テーマ・実践の場での企画案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実践の場の方向性として、SDGsを切り口とした「持続可能な地域づくり」をテーマにするのは今の時世マッチした方向性ではないか。 ・ 今回の「持続可能な地域づくり」というテーマは非常に大きく、未来志向でもあるので、テーマ自体は良いかと思うが、大きなテーマで議論するのか、個別のテーマにフォーカスするのかによって大きく違ってくる。 ・ 「こういったものを中心に話し合う」という議論の方向性については、個別のフォーカスも必要ではないか。後の議論では自由に発言をすればよい。 ・ テーマ案を決める席上に若者がいないのが気になる。我々と若者との協働のプラットフォームを作っていく、そこで価値観をぶつけ合わせて新しい価値観を生み出す、そういう場にしてはどうか。 ・ 0回目となる本年度の実践の場のテーマは「我々大人世代と若者は本当にわかりあえるのか」みたいなテーマでよいのではないか、「君たちの考えを聞きたいのだ」という真っ直ぐなプロポーズが必要だと思う。 ・ 実践の場はある意味バトンを渡す場として、「どのバトンを君は受け取りたいか」という形でテーマを公募してはどうか。 ・ 男女共同参画のバトンを受け取りたいのか、教育とか労働なのか、いくつ出てくるかわからないが、それ毎に「そのバトンを受け取った私たちはどうするのか」ということを議論していくという進め方のほうが、ストーリーはすっきりすると思う。その場では大人側がどこまで到達しているのかという真摯な説明が必要だ。 ・ 若者に渡すバトンは、今まで積み上げてきたものということなのか、その中で生じている現状の課題なのか。課題の方がずっと大きく、若い人たちには課題を議論してほしいと思う。福島だけの話ではなく、地震や原発事故による課題もあれば全国レベルの課題もあり、問題はたくさんある。残念ながら今までの積み上げでは解決できず、むしろ問題が生じてしまった課題を定義して、できればそういうことについて話し合ってもらいたい。 ・ 大人部会・若者部会という形で別れて議論するのもよいのではないか。 	<p>いただいた意見を踏まえて、p5,6で取り組みの全体像について再整理しました。 また、p7以降で実践の場でのテーマ案や取組内容の事務局案を策定しました。 これらについて、本日の意見交換会で意見いただきたく思います。</p>

● 2. 第1回意見交換会の振り返り

No,	主な意見	回答・反映
2	<ul style="list-style-type: none"> ●議論の対象とする地域の対象 ・地域づくりの対象をどこに置いて議論していくかが非常に重要だと思っている。12市町村は人口減少や高齢化、産業の担い手不足など、将来的には全国共通の課題になることが極端なスピードで進んでいる地域であり、12市町村の将来像・地域づくりを考えることで全国に発信していけるものになるのではない。 ・福島のことを話したほうが良い。「福島で今やっていることは、そう遠くない時期に君たちの地域でも起こる、だから福島に学ぶことが必要ではないか」という価値は伝えておいた方がよい。 	<p>副代表団体の皆様との意見交換では福島県を対象とすることが共通意見でした。</p> <p>このため、実践の場のプログラム案では、浜通りの視察や、福島県の地域づくりに関する現状の説明といった企画を盛り込みました。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ●参加者について ・議論に参画してもらおう団体について、議論が噛み合わないと深まらない。少しずれるとそれ以上入り込めなくなってしまう。ある程度同じような価値や知識を持った人を集めないと、議論がすれ違うと思う。 ・若者ということであれば、浜通りに限らないがSDGsの取組を一生懸命やっている高校がいくつかある。 ・災害ボランティアの学生団体があり、震災だけでなく災害ボランティアとして活動している。学生の自主組織で、お金も全て自分たちで賄って活動している。彼らは非常に目的をしっかり持っている。 ・フリースクールや不登校の子供たちの市民活動組織を推薦する。 	<p>P10,11に参加者案とそれぞれのメリット、デメリットを記載しました。本日議論を行いたいと思います。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ●その他 ・ファシリテーターも若者に務めてもらってはどうか。1泊2日程度でファシリテーターの講習会をするといい。「結論がこうだった」というだけでなく、彼ら自身が学びながらこの取組の中で変わっていくというのも1つの成果だという見せ方もできる。 	<p>実践の場のプログラム案では、2日目に若者がファシリテーターを担った形でグループディスカッションを行う企画を盛り込みました。</p> <p>なお、ファシリテーターの講習について、事務局案では、1日目の夜に行う形を想定しておりますが、この点についても、本日議論したいと思います。</p>

● 3. 令和4年度実践の場の具体案について (① 今年度の取組の狙い・全体像)

1. 今年度の意見交換会・実践の場の狙いの整理

1) 目的の整理

- 第2期復興・創生期間の「新しい東北」の取組では、地域の取組や取組を通じて得られた知見を被災地内外に普及展開することが重要
- 人口減少や少子高齢化などの課題を先取りしている福島において、県内外の次世代を担う若者が共に「持続可能な地域づくり」を考える「話し合いの場」を作ること、国内外への情報発信や、地域の抱えている課題解決に向けた具体的な取組につなげていく
- 「話し合いの場」は、福島県内の復興のシンボルである「Jヴィレッジ」に置き、この場所（＝Jヴィレッジ、福島県）から何ができるか、何を提案していくのか、若者目線での議論を進める



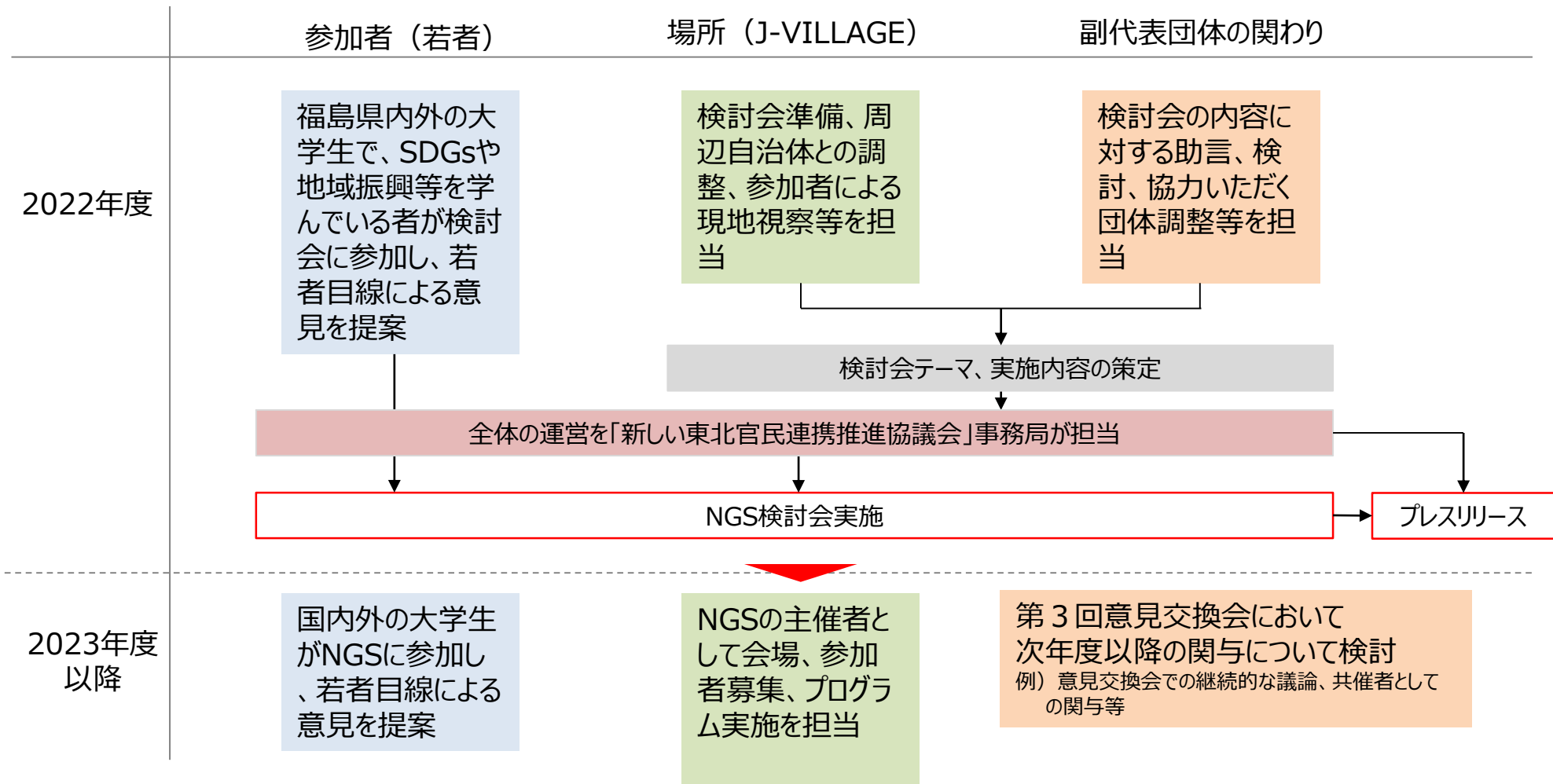
2) 2022年度の取り組み方針

- 実践の場では、来年度以降、若者同士の「話し合いの場」を作る前準備として、副代表団体、主団体、協力いただく団体により、来年度以降の取組内容を若者目線で整理する0回目の「サミット」を開催する
- 実践の場の参加者には、本意見交換会で策定した暫定プログラム案（現地視察や地元で活躍しているゲスト等とのディスカッションを含む）を経験してもらい、若者目線で来年度のプログラム案へとブラッシュアップしてもらう
- 実践の場の成果として、来年度以降の取り組み内容をまとめ、プレスリリース発信をおこなう

3. 令和4年度実践の場の具体案について (① 今年度の取組の狙い・全体像)

3) 「話し合いの場」イメージ

- タイトル案：「The Next Generation Summit in J-VILLAGE」(以下NGS)
- 2022年度は、来年度以降、若者同士の「話し合いの場」を作る前準備として、0回目の「サミット」を開催する



3. 令和4年度実践の場の具体案について (②実践の場の具体案)

項目	内容
タイトル (案)	「The Next Generation Summit in J-VILLAGE」第0回サミット
場所	・ J-VILLAGE
日程	・ 2023年2月16日 (木) ・17日 (金) ※案
目的	招待する学生に協議会で検討したNGSプログラムを体験してもらい、福島県の抱えている課題・解決方法やプログラムの改善点等を話し合ったうえで、2023年度第1回話し合いの場の実施計画を発表する
テーマ案	<ul style="list-style-type: none"> ・災害リスクと防災の観点から持続可能な地域づくり ・福島県の地域資源を活用した地域づくり (地域資源の例：広い土地と自然・スポーツ・風土など)
参加者	<p>(主団体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 株式会社Jヴィレッジ <p>(副代表団体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 株式会社東邦銀行 ・ 福島県庁 ・ 国立大学法人福島大学 ・ 一般社団法人ふくしま連携復興センター <p>(学生、若手社会人) 10名程度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福島大学災害ボランティアセンター ・ 福島県が包括連携協定を結んでいる同志社大学、広島大学、東京大学、東北大学 ・ 福島県で働いている若手社会人 <p>※参加者については別途協議</p> <p>計20名程度</p>
司会	・ JTB

● 3. 令和4年度実践の場の具体案について（②実践の場の具体案）

<p>プログラム（案）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●1日目 <ul style="list-style-type: none"> ・ 10:00 : ガイダンス ・ 10:30 : 福島県浜通り視察 ・ 15:00 : サミット① ・ 18:00 : 懇親会 ●2日目 <ul style="list-style-type: none"> ・ 9:30 : サミット② ・ 13:30 : とりまとめ ・ 16:00 : 記者発表
<p>ガイダンス 内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己紹介 ・ 検討会に関する説明 ・ 本会に対する狙いや想いを説明
<p>福島県浜通り視察 内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周辺自治体視察 ・ J-VILLAGE施設の視察
<p>サミット① 内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福島県の地域づくりに関する現状の説明 ※地元で活躍しているゲストを招く ・ 視察、説明内容等も踏まえ、福島県の現状や課題に関するディスカッション ※ディスカッション方式（グループ／パネル等）は今後検討 ・ 2日目に議論・発表を行う大きなテーマ（課題）を2～3設定し、翌日のファシリテーター等を設定 ※サミット①の後にファシリテーター等と翌日の進め方に関する話し合い
<p>サミット② 内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマごとに分かれたグループにおいて、グループディスカッションを行う ※ ディスカッションは基本的に学生による運営。学生同士によるディスカッションの場に事務局や副代表団体も適宜参加。 ・ ディスカッション内容については、P9において議論
<p>記者発表内容・とりまとめ内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回の話し合いの場の開催宣言 ・ 具体的な内容については、P9において議論

3. 令和4年度実践の場の具体案について (②実践の場の具体案)

- 記者発表の内容、これに伴う実践の場での議論内容については、大きく分けて、以下2案が考えられる。今年度の充実した議論、来年度以降の円滑な実施に向けて、どちらの案をベースとして、詳細な実践の場企画案の検討を進めるか。

	A案 (課題解決に向けた方策の発表)	B案 (第1回サミットの進め方の発表)
考え方	○ 来年度の1回目開催に向けたプレ実施 という点を重視	○ 来年度の 1回目サミットを学生目線で作り上げる ことを重視
議論の進め方 (イメージ)	<p>[1日目サミット①の前半まで]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 浜通りの視察や地元ゲストからのトークを通じて、福島県の現状を知る。 <p>[1日目サミット①の後半のディスカッション (2h)] ※サミット①の後半2hがディスカッションと想定</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 福島県の現状や課題に関するディスカッション ※ディスカッション方式 (グループ/パネル等) は今後検討 ○ 2日目に議論・発表を行う大きなテーマ (課題) を2~3設定、課題ごとにグループ分け。グループごとに翌日のファシリテーターを設定。 <p>[2日目サミット②のディスカッション (3h)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各グループごとに、議論テーマに応じた課題解決に向けた方策 (具体的な施策等)を議論 (2h程度) ○ 各グループからの発表、議論の総括 (0.5h程度) →記者発表① ○ 最後に、来年度第1回サミットの開催方法に関する若者目線での意見を聴取 (0.5h程度) →記者発表② 	<p>[2日目サミット②のディスカッション (3h)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各グループごとに、議論テーマに応じて第1回サミットの進め方を議論 (2.5h程度) <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>進め方とは・・・募集する対象、開催時期、プログラム内容 (ポスターセッション、ディベート、パネルディスカッション、コンテスト、視察など) 等 例)[テーマ・課題]水産業の復興・風評被害対策 → [議論内容] 全国から風評被害払拭のためのアイデアを集めることが解決策になるのでは → [サミットの進め方] 全国コンテスト形式での分科会の開催</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各グループからの発表、議論の総括 (0.5h程度) →記者発表
記者発表の内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 記者発表内容① (各ディスカッショングループの代表から発表) 議論テーマごとに、課題解決に向けた方策を発表 ○ 記者発表内容② 若者目線での開催方法への意見も踏まえて、今後プログラム案を検討の上、2023年に第1回サミットを行う旨の発表 <p>※ このほか、今回の企画の趣旨の説明等も行う [A・B案共通]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 記者発表内容 ・ 若者目線で考えられたプログラム案を可能な限り盛り込んだ上で、今後、具体の調整を行い、2023年に第1回サミットを行う旨の発表 ・議論テーマごとに、第1回サミットの進め方を発表 (各ディスカッショングループの代表から発表) <p>※ このほか、今回の企画の趣旨の説明等も行う [A・B案共通]</p>

● 3. 令和4年度実践の場の具体案について（②実践の場の具体案）

論点：実践の場へ招待する参加者について

○ 参加者のパターンごとのメリット・デメリットについて、以下整理。（次ページは具体的な参加イメージ）

	学生のみ	社会人含む
県内のみ	<p>【福島大学のみ】パターン：A</p> <p>(メリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域づくりに関連するゼミ等に声掛けすることにより、一定のベースの知識を有する者同士の議論になる 実施までの調整が簡便 来年度以降の運営・企画等にかかわっていただきやすい可能性 <p>(デメリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> 他地域から見た福島県への意見が得られない 大学生のみの狭い視点の議論になる可能性 福島大学のみで10名の参加者を確保できるか 	<p>【県内企業の若年世代から募集】パターン：E～H</p> <p>(メリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> 既に福島県内で産業復興や地域づくりに携わっている社会人を交えて議論することにより、様々な視点からの議論ができる 上記により、参加する大学生にとっても新たな気づき生まれる可能性 地に足の着いた提案が生まれる可能性 <p>(デメリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> 他地域から見た福島県への意見が得られない <p>(※留意事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> なお、上に挙げたメリット中、社会人を交えた議論に起因するメリットについては、プログラム中「サミット①」において、地元で活躍しているゲストとの間のディスカッションを行うことで、同様の効果を得ることができる
	<p>【県内の大学から広く募集】パターン：B</p> <p>(メリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合大学以外への声かけにより、福島が地元の学生や卒業後、福島で就職する可能性が高い学生の意見を反映できる 様々な大学生同士の交流の創出につながる 実施までの調整が比較的簡便 来年度以降の運営・企画等にかかわっていただきやすい可能性 <p>(デメリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> 他地域から見た福島県への意見が得られない 大学生のみの狭い視点の議論になる可能性 	
県外含む	<p>【福島県が包括連携協定を結んでいる大学※1から募集】パターン：C,D</p> <p>(メリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> 他地域の学生から見た福島県についての意見が得られる 他地域の方に現在の福島の姿を知ってもらうことができる 様々な大学生同士の交流の創出につながる 来年度以降、全国の学生等を対象として会議を開催する場合のきっかけとなる <p>(デメリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学生のみの狭い視点の議論になる可能性 実施までの調整が煩雑 	<p>【福島県が包括連携協定を結んでいる企業※2から募集】パターンI～L</p> <p>(メリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> 他地域の社会人から見た福島県についての意見が得られる 他地域の方に現在の福島の姿を知ってもらうことができる <p>(デメリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施までの調整が煩雑 現実的に参加者を確保することが可能か（他県の企業から見て、意見交換に参加するメリットを見出せるか）

※1 同志社大学、広島大学、東京大学、東北大学

※2 27社10

3. 令和4年度実践の場の具体案について (②実践の場の具体案)

案	対象 (計10名程度)	県内	県外
A	大学生 (福島大学)	福島大学 (10名程度)	—
B	大学生 (県内)	県内の大学 (10名程度)	—
C	大学生 (福島大学・県外)	福島大学 (2～4名程度)	福島県が包括連携協定を結んでいる大学 (※1) (6～8名程度)
D	大学生 (県内・県外)	県内の大学 (4～6名程度)	福島県が包括連携協定を結んでいる大学 (※1) (4～6名程度)
E	大学生 (福島大学) + 社会人 (県内)	福島大学 (5～7名程度)	—
		県内企業 (3～5名程度)	
F	大学生 (県内) + 社会人 (県内)	県内の大学 (6～8名程度)	—
		県内企業 (2～4名程度)	
G	大学生 (福島大学・県外) + 社会人 (県内)	福島大学 (2名程度)	福島県が包括連携協定を結んでいる大学 (※1) (6名程度)
		県内企業 (2名程度)	—
H	大学生 (県内・県外) + 社会人 (県内)	県内の大学 (4名程度)	福島県が包括連携協定を結んでいる大学 (※1) (4名程度)
		県内企業 (2名程度)	—
I	大学生 (福島大学) + 社会人 (県内・県外)	福島大学 (6名程度)	—
		県内企業 (2名程度)	福島県が包括連携協定を結んでいる企業 (※2) (2名程度)
J	大学生 (県内) + 社会人 (県内・県外)	県内の大学 (6名程度)	—
		県内企業 (2名程度)	福島県が包括連携協定を結んでいる企業 (※2) (2名程度)
K	大学生 (福島大学・県外) + 社会人 (県内・県外)	福島大学 (2～4名程度)	福島県が包括連携協定を結んでいる大学 (※1) (2～4名程度)
		県内企業 (1～2名程度)	福島県が包括連携協定を結んでいる企業 (※2) (1～2名程度)
L	大学生 (県内・県外) + 社会人 (県内・県外)	県内の大学 (2～4名程度)	福島県が包括連携協定を結んでいる大学 (※1) (2～4名程度)
		県内企業 (1～2名程度)	福島県が包括連携協定を結んでいる企業 (※2) (1～2名程度)

※1 同志社大学、広島大学、東京大学、東北大学 ※2 27社 11

● 3. 令和4年度実践の場の具体案について（②実践の場の具体案）

論点：学生への参加募集告知方法について

1) 実践の場実施時期

- ・ 2023年2月16日、17日

2) 募集内容

募集に当たっては、以下のような協議会の想いを若い世代に伝えることとしてはどうか。

- 私たち協議会の想い（イメージ）

東日本大震災から11年が経過した今、福島県では、東京電力福島第一原子力発電所事故による避難指示の解除が進み、避難者の帰還が進んでいますが、その一方で、人口減少や高齢化、産業の担い手不足などの課題に直面しています。

これらの課題は、震災以前からも全国各地に存在していた課題ではありますが、震災を契機として被災地で特に顕在化・加速化されました。我々の世代が現在進行形で直面している課題であり、今後、次世代を担うことになる皆さんも必ず直面するものです。

こうした課題の解決に向けて、私たちから皆さんに、「投げっぱなし」の形ではなく、想いを込めて確実にバトンを渡したい。このような思いで、2023年度以降、福島県の復興のシンボルである「J-VILLAGE」を舞台に、県内外の次世代を担う若者が共に「持続可能な地域づくり」を考える「話し合いの場」を作ることとしました。

具体的な議論のテーマや進め方は決まっていません。皆さんと一緒に考えたいからです。

そこで、2023年2月に「話し合いの場」の0回目として、「第0回 The Next Generation Summit in J-VILLAGE」を開催します。

この会議では、福島県浜通りの現地視察や地域課題の解決に向けて地元で活躍している方々等とのディスカッションを通じて、福島県の「今」について知ってもらうとともに、皆さんの目線から来年度以降の「話し合いの場」について、具体的な話し合いのテーマや進め方を決めていただく予定です。

課題解決には若い皆さんが起こす「新しい風」が必要不可欠です。積極的なご参加をお待ちしています。

3) 募集方法

- ・ 一般募集を行うか、一般募集は行わず、個別に大学や企業へ打診する形とするか

● 3. 令和4年度実践の場の具体案について (③本年度の数値目標案)

項目	目標値
①実践の場へ参加した学生、若手社会人の数	10人以上
②発表	第1回NGS開催に向けた計画案を発表
③メディア効果	掲載紙数20メディア以上

● 4. 意見交換

論点 1 実践の場（0回目サミット）実施にあたり、目的の再確認

目的：招待する学生に協議会で検討したNGSプログラムを体験してもらい、プログラムの改善点等を話し合った上で、2023年度第1回の話し合いの場の実施計画を発表する

論点 2 実践の場の内容案（テーマ案・プログラム内容・記者発表内容）に関する検討

- 実践の場スケジュールや進め方に対する意見等
- 浜通りの視察内容やディスカッションに参加していただく地元で活躍しているゲスト
- 記者発表の内容・議論内容案A及びBに関する意見

論点 3 実践の場の内容案（招待する学生の対象及び募集方法）に関する検討

- 招待する学生の対象に対する意見
- この他に招待すべき関係団体について

論点 4 年度内の目標確認及び目標達成に向けた副代表団体から追加支援等

今年度の実践の場や来年度以降の取組を見据え、例えば以下のような点など、副代表団体として支援・関与できることはあるか。

- | | |
|-----------|--|
| 福島大学様 | : 0回サミットに参加いただく学生を募ることは可能か。
その際、どのような学生に声掛けをすべきでしょうか？ 声掛け方法も併せてご教示ください。 |
| 東邦銀行様 | : 0回サミット実施にあたり、連携可能な貴行の取組はあるか。 |
| 連携復興センター様 | : 実施案全体に対するアドバイスを頂戴したいです。
連携可能な貴センターで取り組まれている事業はあるか。
2023年のサミット実施にあたり、本年度招請すべき団体等はあるか。 |
| 福島県庁様 | : 県の取組との連動を視野に入れ、実践の場や意見交換会への他部署の招請、情報共有について必要性をご検討ください。 |

● 5. 今後のスケジュール

月日	内容	備考
10月11日～14日		
10月17日～21日	第2回意見交換会	
10月24日～28日	議事録整理・実践の場内容の修正	
10月31日～11月4日	議事録確定・実践の場内容確定	
11月7日～11日	参加者への説明	
11月14日～18日		
11月21日～25日	参加者確定	
11月28日～12月2日	実践の場実施に向けた準備開始	
12月5日～12月9日		
12月12日～16日		
12月19日～23日		
12月26日～1月6日		
1月9日～13日		
1月16日～20日		
1月23日～27日		
1月30日～2月3日		
2月6日～10日		
2月13日～17日	実践の場（2月16・17日）※案	
2月20日～24日	実践の場検証資料確定・第3回意見交換会資料確定	
2月27日～3月3日	第3回意見交換会	